



もくじ	information
p 1 ~ p 3	地域間交流 (御蔵 - 大久保)
p 4 ~ p 5	台湾水害とチャリティーコンサート報告
p 6 ~ p 7	街人(まちづくりレポート)
	吉田昌氏(アーバン・プランニング研究所)
p 8	今思うこと 加藤洋一
p 9	天草からの訪問
	大地のつばやき
p 10 ~ p 11	公団勉強会
p 12	活動報告 / 募金・賛助会員

gekkan
machi-komi
Information

まち・コミでは、以下のよ
うなイベントを予定し、一
般参加の方をお待ちして
おります。

ご興味をお持ちの方は、
まち・コミ(TEL 078-578-
1100)まで詳細をお問い
合わせの上、ぜひお越し
ください。

「とことん知ろうまちづ
くり・2001」

Vol.1:11/25(日)13:30 ~

区画整理地区を歩き、何
故住宅の再建が遅れている
かをディスカッション

Vol.2:11/28(水)18:30 ~

震災復興区画整理から
生まれた住民主体のまち
づくりについて担い手
たちに聞く

場所: プラザ5

主催: 神戸まちづくり
研究所

地球の寝返り(阪神・
淡路大震災支援チャリ
ティーライブ)

東京版: 11/18(日)17:00 ~

場所: 新宿ロフト

神戸版: 11/24(土)14:00 ~

場所: 神戸メリケン
パーク

野外特設ステージ

後援: まち・コミ

地域間交流

「新宿区大久保 - 御蔵」

まち・コミュニケーションの今年
の事業度の一つの柱である
地域間交流。他地域にも
目を向けることで自分の
地域を見つめられるよう
になればと思い実行中。
また地域の中に常に新
しい人風がはいてくれ
ばと思っています。今回
は遠征しちゃいました。

東京都新宿区大久保で「第
20回大久保祭」(新大久
保商店街振興組合主催)
が10月8日(月)に行われ
ました。祭の協力者であ
る「外国人とともに住
む新宿区まちづくり懇
談会(以下、共住懇)」の
方々に誘われ、御蔵の
有志の方とともに、神
戸長田名物そば飯(す
じコン入り!)を出張販
売がしました。

当日は雨模様ではあり
ましたが、そば飯待つ列
は最後までとぎれること
なく2時間弱で350食と
すごい勢いで完売しま
した。前日から夜間車
を大久保まで走らせて
きた御蔵の方も、連日
準備をしてきた大久保
共住懇の方々も、一緒
にそば飯を販売しまし
た。ふつつかながら
まち・コミ東京・神戸
のメンバー共々店の周
りにつき総出で手伝
いました。東京メンバー
は共住懇の発行してい
る地域情報紙「おおく
ぼ」の取材編集まで行
いました。終了後懇親
会も行われ、1日では
ありましたが楽しいひと
ときを過ごしました。



そば飯焼きの様子

大久保

共住懇

現在進行中...



●なぜそば飯、今回の交流の最初のきっかけは？

「本当のそば飯を食べさせたかった」

大久保では5月に商店街の方が中心になって、五月祭りを行った。その打ち上げで、大久保の居酒屋でたまたまメニューでそば飯というのがあった。それは交流のある被災地神戸での味とは似て非なるものだった。本当のそば飯を食べて貰いたい「神戸のそば飯をここ大久保につれてこよう」とおもった。具体的に御蔵のことが頭をよぎった。外国文化の多いまちでたまには日本の文化も入れて大久保に活気をつけたかった。

●映像祭からさらに交流の発展・継続

御蔵の方々に声をかけたのは映像祭だけで交流を終わらせたくはなかった。とともにまち・コミメンバー以外の御蔵の方とも交流したかった。

今年の初め映像祭をしかけました。個々人のコミュニケーションも大事だけでも、地域間の交流が大事ではないか。神戸、台湾、大久保の映画を上映した映像祭の後、もっと大久保と神戸の交流で何か出来ればいいなと思っていた。そこで共住懇で御蔵の方に声を掛けた。

●インターコミュニティーの可能性

地域の人たちが交流する。時間がかかることだと思います。プロセスの積み重ねだと思います。地域間で国とかの枠組みを超えて交流する。住民同士だからこそ可能である。

台湾の地震の台北台湾国際ドキュメンタリー映画祭の時も、被災地を回って感じたことは整理された情報でなくて、災害等のディテールの話を欲しがっていた。

専門家同士の交流も重要だけれども、住民同士の生の声を届けられないか、そこから何かが生まれるのではないか。

・共住懇メンバー青池氏は「"インターコミュニティー"をいろんな人や集団がいろんな文化を持ってつながること」としている。(情報紙おおくぼNo.8)

●交流を終えて

共住懇で他の地域からは初めての交流でした。それに加え協力者としてそば飯企画を商店街に出したので、コーディネートが大変でした。

正直いうと今回は目立った成果はなかったかもしれない。販売時には御蔵と大久保の関係をもう少しアピールしたかった。

御蔵の方が懇親会会場に歩いていくときに、大久保をまちの雰囲気台湾と似ているとか大久保のまちを少しでも感じてくれて嬉しかった。ほんの少しは共有するところが濃くなった。イベントとして「本場そば飯」を印象つけることには成功した。

●これから

大久保でもいろんなまちを刺激するようなことに火を付けたい。現在模索中です。次回は共住懇で何か催しを主催したいと思っています。

東京で震災が起こったときのためにも防災にも、今後は手を入れていきたい。

地域間交流に決まった形はないと思う。今回のように「まつり」+「そば飯」という切り口でも、これだけの交流ができるのだから、他にもいろいろな可能性を探っていきたい。

今回交流をどういう風にやったらいいかを模索し、きっかけだけでもつくりたかった。1回や2回では無理ですが、今後も懲りずに回数を重ねたいと思います。



そば飯を売り終えて

共住懇って？(1992年4月発足)

まち・コミとの関係は？

3月に「復興とまち映像祭(月刊まち・コミ5月号参照)」を共同企画したり、東京まち・コミのメンバーも関係中。

活動地区は

新宿区大久保。新宿区では20,000人程の外国人が住み、その中で最も外国人の集住の目立つ地区が大久保・百人町地域です。ここには約3,000人の外国人が生活し、住民比率にすると20.8%、つまり5人に一人が外国人居住者ということになります。すれちがう人々の会話も聴ききれない言葉であるような、そんな自分たちの住んでいるまちをよく見ると、まちも変わってきました。特別なイベントではなく日常生活のなかで国際交流が進められているようなこの地域社会もまた、新たな対応を迫られています。

活動は？

地域社会の発展を願うものとして外国人居住者とともに住むまちづくりを目標に活動しております。東京の中でも突出した外国人集住地域である新宿区大久保・百人町地区が活動の拠点です。

活動人構成は

大久保まち大好きな方の集まりで地元の方は少ない。

共住懇 HP:<http://www.root.or.jp/kyojukon/index.html>



御蔵 まち・コミ

●自信の一品であるが久しぶりに作ったそば飯

そば飯の本場として地域外の方にも食べさせてあげたかった。復興半ばではありますが、今回一緒に台湾にもいった大久保共住懇の方に誘われて、なんとかおいしいそば飯を食べてほしい想いでした。こちらでしか用意できないすじコン等を前日から用意しました。相当疲れましたが、充実した3日間でした。当日はおいしいと2回も買いに来てくれる方がいて嬉しかった。

●まち・コミュニケーションがそば飯?をはじめたわけ

さてなんでまち・コミュニケーションがそば飯の販売のお手伝いまでしているのか不思議かと思えます。8月にも神戸メリケンパークで「光の祭典」にそば飯を出店しました。(9月号p6参照)

震災前の御蔵は町工場が多く、その方たちが昼食やお茶を飲むために飲食店が多いまちでした。(下表参照)特に喫茶店が多いが、他のまちと比べるとお好み焼き屋さんも多い。今回の2回のそば飯は震災前お好み焼き屋をしていた方を中心に焼いていただきました。

●なぜ、やめざる得なかったか?

...今回のそば飯隊メンバーのひとり、Tさんの場合

震災前はお好み焼き屋さん、もちろんそば飯も販売していた。震災時御蔵4丁目の店舗は全焼、6月頃自宅を再建し、商売をしていたが区画整理のための換地で店の再建をあきらめる。理由は借金をして商売するくらいだったら、移転補償をもらって市営住宅に入る方が良かった。ただでさえ小さい店が減歩されて小さくなると商売が出来なくなる。大型店舗が長田にも出来ているから個人ではなかなか勝負にならない。だが今でも少しは焼きたいと思っている。

また現在喫茶店にいく

立場でも、昔の婦人会のようなグループの方が震災後は行かない。今までの友達がいないからひとりでは行かない。なにせ震災の時の支出で家計を切りつめないといけない。

●被災してしまうと

高齢で被災してしまうと、再建費用が返済できる見込みが無いために、区画整理地区では土地を売却し、市営住宅等に入られる方が多かったようです。

高齢でない方や跡継ぎのいる方は必死で再建されていますが、地域密着の飲食業は人口の回復しない地域で再建された方は非常に再建後も苦しんでおられます。地域

長田名物「そば飯」のルーツ

ケミカルシューズ産業が盛んになりはじめた、昭和30年代ころのこと。近所の工場で働く人たちが、お昼になると、ごはんだけを詰めたお弁当箱を持ってお好み焼き屋へ。その冷や飯を鉄板の上で温め、焼そばやお好み焼きをおかず食べていたそうです。

ところが、いつの時代にも発想力に富んだ人はいるもので、「そや! どうせなら、そばとごはん一緒に焼こ。」これが、そば飯のはじまりです。これなら、ごはんに味もしみ込むし、一度に食べられるからスピーディ。わずかな休み時間に、いかにおいしく手際よく食べるかを考えた末の結果だったのかもしれませんが。おばちゃんにしてみれば、気配りで単に「ええよ」といったのですが、それがあまり長田周辺に拡がり、今では定着してしまいました。「下町でのちょっとした気配りでできた、店のおばちゃんとまちのみんなの合作。」

の中でもつぶれる可能性がある店がある?

●まちもきれいになったが、料理もきれいになった?

旧来からの商売が続けられない等で、気さくに話しかけられ、情報交換の場(震災直後も安否確認等の情報交換の場として有効だったそうです。)であった飲食店は減り雑多な料理ができる環境はなくなりつつあるように思う。

左のような方達は一例で、商売をなくした方がたくさんいる。御蔵5,6丁目だけでも喫茶店は7軒から2軒になっている。

●そば飯を終えて

今回そば飯にいった方々は、忙しかった商売時代でできなかった趣味等で毎日忙しく楽しく暮らしている。しかし儲かるかどうかかわからないができれば商売をしたい気持ちは今でも忘れていない。

帰ったときの体力的には疲れているはずなのに御蔵のおばさん達の顔が、ソバ焼きを売り切って帰ってきた達成感からか、やけに若々しく輝いてみえてしまいました。

今回お世話になりました商店街の方々をはじめありがとうございました。今後も御蔵のまちづくりは他地域との交流を楽しみにしています。そのときはよろしくお願いします。

	震災前(1995)	震災後(011016現在)	比率(震災後/震災前)
お食事処(軒)	8	5	0.63
お酒処(軒)	6	4	0.67
喫茶(軒)	7	2	0.29

表 震災前後で御蔵5,6丁目の飲食店の数の変化(住宅地図調べ)